



“あなたは一人じゃない” チームで支えた担い手支援

さく ち まさ や
菊地 雅也

島根県・JAしまねくにびき地区本部 営農経済部 営農企画課 係長

※本稿は2024年11月に行われたTAC・出向く活動パワーアップ大会での発表より構成しています

JAしまねの概要 (令和6年)

- 管内人口 645,887人
- 耕地面積 36,200ha
- 組合員数 210,057人(含、准組合員)
- 管内担い手数 1,151経営体(認定農業者)
- 購買品供給高 31,738百万円
- 販売品取扱高 34,868百万円
- 信用事業(貯金) 1,000,674百万円
- 長期共済保有高 2,772,491百万円



西条柿



牡丹



島根たまねぎ

JAしまねのTAC活動

当JAは11の地区本部制をとっており、県下TACの配置人数は24名です。融資の相談対応や信用共済の提案まで、TACはJAの総合窓口であるという意識を持ち、幅広く活動しています。

対象となる担い手の状況

今回対象となる担い手は、青ネギ、リーフレタスを中心に、実例の少ない露地でのEZ水耕栽培にて、営農を行っているH農園です。ふろさと定住財団「若年者長期就労体験事業」を活用し、令和3年より経営を開始した担い手です。EZ露地水耕栽培とは、水田にプールを設置し、

意見・要望までの経過

- ・令和3年7月の豪雨被害が発生し、大きな被害を受け、再建には大きな費用が伴った。（被害額：約150万円）
- ・栽培についての経験・技術不足などに伴う経営の不安定さを目の当たりにし、高い志をもって就農した若い農業者の将来に不安を感じていた。



担い手の状況

パネルを浮かべ栽培する水耕技術となります。従来の水耕栽培に比べ安価なことや、連作が可能で収穫量が多いことなどが特徴としてあげられます。

当初は年間3～4作を目標に経営を計画していましたが、就農してからの2年間は豪雨災害の影響もあり、農業収入が伸びず計画を大きく見直すことが急務となっていました。また、TAC自身も訪問を重ね、関係を構築していくなかで、経験や技術不足からくる経営の不安定さを目の当たりにし、若い農業者の将来に不安を感じていました。

訪問を重ねるうちに、このままではこの経営体はもたないと判断し、H氏に気持ちをストレートにおつけ、本音で現状や将来について対話しました。当初H氏は、自身の現状把握が曖昧で危機感が欠如しているように感じましたが、対話を深めるうちに、「どうしたらいいかわからない」と本音の言葉を聞き、自身の現状を理解、把握してもらうこと、また、状況を整理ししっかり腹に落としてもらうことを目的にヒアリングを実施しました。

ヒアリングの結果、就農して2年間、農業収入が農業経営計画を大きく下回っている点や、本人が問題点を自覚できていないこと、就農にあたり国の補助事業を活用しているが、このままでは交付金返還の可能性があることなどの課題が確認できました。

課題解決に向けた TAC の提案

TAC が感じていた“この状況はまずい”ということを共有にとどまらず共感できたこと、補助事業の中間評価について H 氏に見える化できたことが大きな成果でした。改めて H 氏から TAC に対して「助けてほしい、支援してほしい」と相談され、点や線でなく、面での支援が必要であると感じ、関係機関へ協力を呼びかけました。チームには H 氏本人のほか、JA、島根県、松江市、H 氏の師匠にも協力してもらい、「チーム H 農園」を結成しました。

チーム結成は、補助事業の中間評価に向けた目標販売金額250万円の達成はもとより、持続的な農業生産をめざすものとししました。また、情報の共有や協議の場としての検討会を継続開催することとし、令和5年1月に第1回チーム会議を実施し、大きな課題を2点に整理しました。

1点目の大きな課題は、栽培面での課題です。栽培面についてはチーム結成前から県と栽培技術確立のために調査を行っており、pH や EC のほか、溶存酸素量などを調べ、気温等の推移が水温や地温に与える影響などを調査しました。また、固形肥料の溶出調査では、定植後1週間でもかなりの量が溶け出してしまい、定植40日を過ぎたころには肥料がほとんど残っていないことなどが確認できました。調査結果を参考に、栽培面での改善点を明確にし、次のとおり整理しました。

課題改善のため、状況把握を目的に、水温などの測定結果が定期的に

【状況把握】

水温・気温・地温それぞれ温度計と水位計を設置し、測定結果が定期的にH氏のスマホへ送信されるよう温度管理システムを設置

【安定した肥効確保】

固形肥料から液体肥料へ変更。併せて、栽培プール内の溶存酸素とpH・ECの均一化のため1プール1本の灌水チューブを配置

【溶存酸素量の確保】

1プール10本の酸素チューブを設置するなど、酸素供給を行うためのエアレーション装置を設置

【育苗の効率化】

従来の株取り収穫ではなく、株刈り収穫を実施。株刈りで株を残すことによって苗として活用しもう一度収穫を行う。

栽培面での改善点

H氏のスマホに送信されるよう温度管理システムを設置することや、溶存酸素量の確保を目的に、酸素供給を行うエアレーション装置を設置することなど、課題解決に有効と考えられる対策を実施しました。それぞれ対策を実施した結果、栽培面での課題は改善され、収量も向上し、安定的に生産物が出荷できるようになりました。

2点目の大きな課題は販売面についてです。過去2年、出荷量が少なく、販売先まで分析ができていなかった状況を鑑み、TACから学校給食への出荷を提案しました。学校給食は出荷情勢もあり、安定した出荷先となりうることや、チームに学校給食事業を管理する松江市が参加していたこと、JAで集出荷の調整をしていることなど、出荷までの交通整理もスムーズに行えることもあり、出荷先の柱にすることとしました。

また、それ以外の改善点も整理し、販売面の課題解決に向けた対策を順次実行していきました。課題を解決すると、新たな課題が発生するなど課題が途切れることはありませんでしたが、都度チームで協議して改善策を検討し、令和5年の目標販売金額250万円を達成することができました。結果的に学校給食への出荷割合は販売内訳の40%を超え、ねらい通り経営の柱となりました。

取組みの成果

目標販売金額250万円が達成でき、補助事業中間評価に向けた成果を出すことができました。また、安定的に生産物を栽培できる環境が整い、持続的な農業生産をめざす土台ができました。販売額は、前年より6倍以上となりました。

また、JAにとっても学校給食や産直への出荷を斡旋したことで、販売品取扱高が伸長し、販売手数料が増加しました。

今回の取組みはTAC単独の支援でなく、関係機関と一緒にチームを結成したことで支援の輪となり、若い農業者の付託に応えられた優良事例であり、JAとして未来への投資につながった大きな成果となります。将来の地域農業を担っていく若い農業者の力になれた、救えたことは、JAの使命を果たしたことにほかなりません。

令和5年の目標販売金額2,500千円（農業経営計画目標額80%）を達成することができ、補助事業中間評価に向け成果が出せた。

調査結果を活かすことで栽培方法が確立でき、安定的に生産物を栽培出来る環境が整った。

○数値化できる成果

項 目	令和4年	令和5年
販売額（青ネギ・リーフレタス）	410千円	<u>2,520千円</u>
販売高（青ネギ・リーフレタス）	310kg	1,751kg

担い手にとっての成果

- ・学校給食や産直への出荷を斡旋したことで販売品取扱高が伸長した。
- ・繋がりを強化できたことで継続的なJAへの出荷が期待できる。
- ・栽培技術確立の支援を実施したことで、肥料等が変更となり資材供給等がJAにて行えた。

○数値化できる成果

項 目	令和4年	令和5年
販売手数料（3%及び5%）	12千円	105千円
肥料等資材	0	77千円

JA にとっての成果

最後に

今回目標を達成できたことは、夢と希望を持って農業をはじめた若い農業者への支援方法として、1つの道しるべのような取組みになったと感じています。何かを変えよう、変わろうとするには、まず変わりたいと強く思うこと、現状をしっかりと把握することが特に大切であると強く感じました。

「農業に笑顔と感動を」